

令和8年度

「運営に関する計画」

大阪市立佃小学校

令和8年4月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全学年がクラス替えのない単学級で89名の小規模校であり、安定した学級経営が行われている。全児童がお互いについてよく理解していて、トラブルは少ない。しかし、固定化された人間関係から、一度もめごとが起きると長期化することがある。いじめや児童間のトラブルを未然に防ぐためにも、早期発見と早期対応に努めなければならない。引き続き、教職員間での情報共有を徹底し、全教職員で指導に当たる体制を継続していく必要がある。
- 全国学力学習状況調査や学力経年調査等では、平均正答率が向上した学年も見られた。しかし、学年や教科による差が大きいことが課題である。安定した学力向上をめざして、さらに教員の研修を深め、主体的・対話的で深い学びに取り組む児童を育てる学習指導を行わなければならない。
- ICT 機器を使用した学習環境を整備し、日々の学習に活用できるようになった。今後は個別最適な学びを進めるために、宿題や家庭学習の工夫やタブレットの持ち帰り学習を進める必要がある。また、論理的思考を育成するために、プログラミング学習を充実させる。系統立てた学習指導計画を作成し、学習指導を進める。
- 教職員の時間外勤務時間は大きく減少したが、学級担任の時間外勤務時間が多い傾向にあることから、業務の見直しや校務分掌の分担、専科指導の充実などを通して、さらに学級担任の負担を減らしていかなければならない。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和8年度小学校学力経年調査における「キャリア教育を通して、自分の将来について考えることができた」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.3ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「総合的読解力育成カリキュラムに取り組むことで、資料や文章などを読むときに、どこが大事なところかを考えながら読んだり、自分の考えを発表するときに、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したりしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月20時間以下とする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和8年度の学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78%以上にする。
- 令和8年度の学力経年調査における「キャリア教育を通して、自分の将来について考えることができた」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

学校独自の目標

- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和8年度小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。
- 令和8年度小学校学力経年調査における「総合的読解力育成カリキュラムに取り組むことで、資料や文章などを読むときに、どこが大事なところかを考えながら読んだり、自分の考えを発表するときに、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したりしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。
- 令和8年度小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

学校独自の目標

- 令和8年度小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。
- 令和8年度小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和8年度小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を70%以上にする。
- 令和8年度小学校学力経年調査における「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を75%以上にする。
- 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月20時間以下とする。

学校独自の目標

- 令和8年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

--

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和 8 年度の学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 78%以上にする。 ○ 令和 8 年度の学力経年調査における「キャリア教育を通して、自分の将来について考えることができた」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。 <p>学校独自の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「大阪府いじめ対策基本方針」に基づき、いじめへの適切な対応を行う。学期に 1 回のアンケート調査の実施や、「心の天気」を毎日入力させることで、早期発見、早期対応に努める。また、不登校児童の実態を月に一回程度把握する対策委員会を開催し、児童一人ひとりに寄り添った、安心して登校できる体制づくりと学習機会の確保を行う。</p> <p>指標</p> <p>年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p>	
<p>取組内容② 【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学校行事や児童集会での取り組みの中で異学年間の交流を行う。</p> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」への肯定的回答を、78%にする。</p>	
<p>取組内容③ 【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>各学年が年に 1 回以上の出前授業や体験学習を行う。児童が主体的に活動できるように支援し、キャリア教育を通して自己肯定感や自己有用感を高めさせる。</p> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査の「キャリア教育を通して、自分の将来について考えることができた」への肯定的回答を 70%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
来年度への改善点	

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和 8 年度小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。 ○ 令和 8 年度小学校学力経年調査における「総合的読解力育成カリキュラムに取り組むことで、資料や文章などを読むときに、どこが大事なところかを考えながら読んだり、自分の考えを発表するときに、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したりしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。 ○ 令和 8 年度小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。 <p>学校独自の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和 8 年度小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 70%以上にする。 ○ 令和 8 年度小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」を中心とした研究授業を全員が 1 回以上行い、対話的な活動を通して自分の考えを深めることができる学びの姿勢を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査において「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対する肯定的な回答を 75%以上にする。</p>	
<p>取組内容② 【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>算数科の研究授業を中心とした研修会を学期に 1 回以上行い、算数科の指導力向上をめざす。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査において算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。</p>	
<p>取組内容③ 【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>教科等横断的な学習として、総合的読解力育成カリキュラムの指導計画に沿った指導を進め、思考力・判断力・表現力等の育成に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>令和 8 年度小学校学力経年調査における「総合的読解力育成カリキュラムに取り組</p>	

<p>むことで、資料や文章などを読むときに、どこが大事なところかを考えながら読んだり、自分の考えを発表するときに、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したりしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を65%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 4・5・6年生は、英検ジュニアを受検する。希望の者は、英検を受検できるようにする。また、検定試験に向けた自主学習コーナーを設置し、意欲的に学習に取り組める環境を整える。</p>	
<p>指標 令和8年度小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 運動に興味・関心を持ち、楽しみながら取り組める授業や学校行事を行う。また、休み時間の運動場の活用の工夫や運動の楽しさを、体育委員会が中心となって全員に発信する機会を年間2回以上設定する。また、運動に親しむ体育週間を年間に1回設定する。</p>	
<p>指標 小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>来年度への改善点</p>	

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和 8 年度小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を 70%以上にする。 ○ 令和 8 年度小学校学力経年調査における「宿題や連絡帳など、授業以外の場面で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を 75%以上にする。 ○ 教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下とする。 <p>学校独自の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和 8 年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 70%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 6、教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <p>学習者用端末を各教科授業等で効果的に活用し、週に 3 回以上使用できるように指導を工夫する。</p> <p>指標</p> <p>令和 8 年度小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週 3 回以上と回答する児童の割合を 70%以上にする。</p>	
<p>取組内容② 【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>勤務時間の上限に関する基準を満たす教員の割合 (基準 1) を 75%以上にするために、月に 3 回以上のゆとりの日の設定、学校閉庁日を昨年度と同程度の設定を行う。また、専科指導の時間数を増やす。</p> <p>基準 1・・・1 年間の時間外勤務時間 360 時間以下、45 時間を超える月がない。</p> <p>指標</p> <p>教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下とする。</p>	
<p>取組内容③ 【基本的な方向 8、生涯学習の支援】</p> <p>教室や廊下などに読書スペースを作り、読書に親しませる場を設定する。教員や図書館司書が主体となって、本の読み聞かせを学期に 3 回以上行う。</p> <p>指標</p> <p>令和 8 年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 70%以上にする。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
来年度への改善点	